

1 今年度の取り組みと自己評価

【自己評価の基準】

A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：まったく達成できなかった

(1) 教育活動への取組と自己評価

取組目標	実施した方策	主な評価指標	自己評価
学校経営・組織体制 ①学校経営 個々のコンプライアンスが学校改革レベルになる。それぞれの分掌・学年業務が他の分掌・学年に好影響を与える。学校全体が互いに協力し向上するチームになる。教育活動の特色化を計画する。 ②人材育成、授業力向上、研修、ライフ・ワーク・バランス 個々の業務遂行力が高水準になる。○個々の授業力が高水準になる。本校スタッフ全員が生徒のロールモデルになる。「チームがワークする」組織になる。 ③施設・設備の整備 学びやすい環境が作られている。安心・安全が確保されている。図書館の利用頻度が高い。 ④経営企画事務マネジメント、自律経営推進予算 事務業務が滞りなくマネジメントされている。前年度の課題を克服する工夫がある。			【達成度 B】 学校経営計画を定量化しうる目標とし、学校評価に反映させた。 スクールポリシーを改正し学校改革を進めた。コンプライアンス水準が高水準であった。 授業力向上の意欲が高く若手を中心に人材育成が進んだ。 休暇等の取得支援を行いライフ・ワーク・バランスが浸透した。ICT支援員の活用を行った。 体育館外階段の改修、余剰の樹木の伐採、放置された廃棄物の処理等校内施設の整備保全に注力した。 事務業務が滞りなくマネジメントされた。課題解決にむけ創意工夫があった。
募集・広報（地域交流等） ①地域との連携 地域の方の評価が高い。 ②募集・広報 <u>○説明会来場者が増加し入選倍率を確保する</u> 。入学希望者が夢を持っている。選抜した受検者が本校に適合している。			【達成度 C】 学校評価アンケートでは地域の評価を十分にはいただけなかった。授業公開を2回実施した。 学校案内、学校説明会を工夫し追加説明会を実施したが応募倍率は昨年より振るわなかった。
	新中期計画の策定と実施、評価。学期ごとの分掌の実績と課題のまとめの実施。 学校改革の推進。主幹教諭、企画調整会議による提案。自己申告制度の活用。 ・校内研修・OJTの実施。授業観察・相互授業参観の実施。「東京グローバル人材育成指針」に基づいたグローバル人材の育成。 ・年休取得日数・勤務時間制限目標の設置。イクボス宣言の実施。アウトリーチ型相談事業の活用。学校業務支援員の活用。 学習環境の整備・保全。美化委員会の活性化と校内清掃の工夫。デジタル技術を活用した教育の推進。教育活動と一体化した図書館活用の工夫。 庶務、経理、施設、給与、学事業務の適正実施。自律経営推進予算編成作業の効率化、予算の効果的な編成。	「私は、日本橋高校の教育目標やスクールポリシーを生徒や保護者に説明している。」（教員62.5%）「私は、お互いに協力して日常の教育活動にあたっている。」（教員92.3%）。学校改革提案33件。教員のコンプライアンスレベルが10段階のレベルが平均8.41。 「私は、分かりやすく丁寧な授業をしている。」（教員94.9%）「私の授業では、生徒は意欲的に学習に取り組んでいる。」（教員89.5%）。月45時間超勤務時間外在校者延べ111人。男性育児休業2名。 「日本橋高校の施設や設備はよく整備されている。」（保護者78.9%）。年間図書室利用者延べ6354人。 一般需用費のセンター執行割合62.0%。「日本橋高校は窓口対応や電話対応が良い」（保護者94.6%）。	
	学校運営連絡協議会、学校評価委員会、防災教育推進委員会における意見交換。入学式卒業式の円滑実施。授業公開の実施。地域への情報配信。 学校説明会の開催。外部説明会への参加。Webを活用した広報活動。生徒を活用した広報活動。	「日本橋高校は定期的に情報提供・発信をしている。」（保護者79.5%）。 ホームページ更新回数272回。学校説明会来場者延べ2442名。中進対倍率0.87倍。入選前期応募倍率1.21倍。	

学習指導 ①教務運営・教育課程の実施 教育課程を適正にマネジメントする。学業成績・出欠席等における生徒の現状が共有できる。 ②学習指導、学習評価 ○各教科の学力の向上を図る。体力テストで東京都平均を超える。	教育課程委員会・教科主任会の開催。統合型校務支援システム・定期考査採点・分析システムの活用。定期考査の適正な実施。入学者選抜業務の適正実施。 年間学習計画の作成。全教員による「生徒が分かる授業」の実施。発問の工夫、指導と評価の一体化。デジタル機器、学習アプリの活用。基礎学力向上と苦手科目克服の指導の工夫。	「授業は分かりやすく丁寧であると思う。」（生徒67.0%）。体力テスト結果は東京都平均超。	【達成度 B】 探究教育導入・三学年の選択科目改善のための教育課程の改正に着手した。教務実務を計画的に適正に実施できた。 生徒の深い学びを引き出す好事例が続出し共有した。体力テストの結果は東京都平均を超え良好であった。
進路指導 組織的・体系的なキャリア教育を実施する。○全ての生徒が希望進路を実現する。	地域と連携した外部人材の活用。進路調査の実施と活用。放課後・土曜日の補習・講習、長期休業中の講習の実施。模試及び模試結果分析会の実施。各種検定やオーバートリプルサード取得率増加の工夫。進路行事の実施。進路相談・面談の実施。	「私の適性や希望などを生かした適切な進路指導が行われている。」（生徒75.0%）。夏期講習講座数23講座延べ210名参加。OTT達成者53名。進路決定率93.2%。	【達成度 A】 次年度以降の探究教育の全体計画を立案した。進路実績、各種検定、講習等前年度実績を上回った。
生活指導 学校生活が安心・安全と言える。○生徒の学校生活の満足度が高い。体罰ゼロ・暴力ゼロ・自殺ゼロ、いじめの早期対応。	生活指導部を中心とした全教員による生活指導。挨拶と言葉遣いの指導、基本的生活習慣の徹底。身だしなみの指導、遅刻指導、チャイム着席の実施。トラブルの未然防止。暴力・自殺の未然防止、いじめの未然防止・早期発見・早期対応。表彰機会の確保。	「私は日本橋高校での生活に満足している。」（生徒67.3%）「私は日本橋高校に入学して良かった。」（生徒73.2%）「私は服装や頭髮など学校のルールを守っている。」（生徒92.8%）「私は、体罰や暴言を無くすための取り組みをしている。」（教員97.4%）「私は、いじめを無くすための取り組みをしている。」（教員94.9%）	【達成度 B】 特別指導件数、中退者数とも減少し、体罰、いじめ、自殺は0件だった。生徒の身だしなみが改善され、学校全体が落ち着いている。
特別活動・部活動 ○生徒の帰属意識が高い。ホームルームが生徒の帰属集団となる。生徒会・委員会活動が活性化する。生徒の自助・共助・公助の意識が高い。ボランティアで貢献する生徒が増える。外部交流や活躍をする部活動が増加する。部活動加入率が向上する。	保護者会の実施、担任と保護者との連携・面談。交通安全指導・避難訓練・防災教育の実施。オープンマインドタイムの実施。一部一善運動の計画。部長会の実施。部活動改革パイロット校として地域との連携。	行事満足度体育祭91%、日高祭95%。 「私は地域に貢献している。」（生徒47.1%） 部活動加入率67.9%。	【達成度 B】 行事満足度が高い。地域貢献する部活動が複数あった。来年度に向け一部一善運動を計画した。
健康づくり 生徒の健康に対する自己管理能力が高い。内容に応じた相談活動が充実する。ユニバーサル教育としての特別支援教育が推進される。	定期健康診断の実施。教育相談委員会の実施。各種講演会の実施。スクールカウンセラーの活用。医療・福祉・警察等隣接領域や外部との連携。	「先生方は悩みや相談事に対応してくれている。」（生徒78.7%） 教育相談委員会年9回開催。	【達成度 B】 部活動での事故が減少した。校内での情報共有を行い、医療・福祉・警察等隣接領域や外部と綿密に連携しおおむね課題を解決した。

注）アンケート項目と数値（「私は…している」（○○・％））は学校評価アンケートより。

(2) 重点目標への取組と自己評価

取組	自己評価
重点項目	【達成度 C】
(ア) 学校経営・組織体制 ○ <u>個々の授業力が高水準になる。</u>	もう少し
(イ) 募集・広報（地域交流等） ○ <u>説明会来場者が増加し入選倍率を確保する。</u>	もう少し
(ウ) 学習指導 ○ <u>各教科の学力の向上を図る。</u>	ほぼ達成
(エ) 進路指導 ○ <u>全ての生徒が希望進路を実現する。</u>	ほぼ達成
(オ) 生活指導 ○ <u>生徒の学校生活の満足度が高い。</u>	もう少し
(カ) 特別活動・部活動 ○ <u>生徒の帰属意識が高い。</u>	ほぼ達成

2 次年度以降の課題と対応策

課題	対応策
(ア) 学校経営 ①スクールポリシーを浸透させること。個々のコンプライアンスレベルを一層高めること。引き続き、それぞれの分掌学年が他の分掌学年に好影響を与え、学校全体が互いに協力し向上するチームになること。 ②教員の業務遂行力や授業力が一層高水準になること。教師としての生き様が生徒のロールモデルになること。「チームがワークする」組織になること。 ③学校が安心・安全で学びやすい環境が作られていること。探究の実施に伴い図書館を活用すること。 ④前年度の課題を踏まえ、事務業務を滞りなくマネジメントすること。	①定量的な目標に基づいて学校評価の精度を向上させる。学期ごとの分掌の実績と課題のまとめを実施する。主幹教諭、企画調整会議による提案を奨励する。自己申告制度を活用し、改革の意欲を醸成する。 ②O J T・オンザフライミーティングを奨励する。相互授業参観を盛んにし、校内研修を定例化する。勤務時間制限目標の設置や学校業務支援員の活用によりワークライフバランスを確保する。 ③引き続き学習環境の整備・保全を行う。探究型教育と一体化した図書館活用を工夫する。 ④学校業務を適正に実施し、自律経営推進予算を効果的に編成する。
(イ) 募集・広報（地域交流等） ①学校運営連絡協議会運営や地域との情報交換など連携強化に努め、ステークホルダーの評価を高めること。 ②説明会来場者を増加させ入選倍率を確保すること。本校に適合した生徒が夢を持って入学すること。	①学校運営連絡協議会における意見交換及び学校評価、授業公開や地域への情報配信を実施する。 ②計画的に学校説明会を開催し、生徒の学習成果を活用するなど広報を工夫する。
(ウ) 学習指導 ①探究教育の実施に伴い教育課程を適正にマネジメントすること。生徒の現状を共有しうる教務運営を行うこと。 ②引き続き各教科の学力の向上を図ること。体力テストで東京都平均を超えること。	①教科主任会を教育課程委員会と兼ねて開催する。統合型校務支援システムなどのシステムを活用しつつ、教務の業務を適正に実施する。 ②深い学びを志向する授業改善に取り組み、授業評価を実施して効果検証を行う。授業以外の学習時間を確保する。
(エ) 進路指導 組織的・体系的なキャリア教育を実効化すること。引き続き、全ての生徒が希望進路を実現できるようにすること。	課題解決型の探究教育を実施する。長期休業中の講習や模試及び模試結果分析会を実施する。各種検定やオーバートリプルサード取得率の増加を図る。進路相談・保護者面談・三者面談を実施する。
(オ) 生活指導 引き続き、学校生活が安心・安全と言えるようにすること。それにより生徒の学校生活の満足度を高めること。	全教員により基本的生活習慣が徹底できるよう指導する。トラブルの未然防止策を講じる。
(カ) 特別活動・部活動 生徒の帰属意識を高めること。生徒の地域貢献への意識を高めること。部活動加入率を向上させ活躍させる。	一つの部活動ごとに一つの地域貢献を担わせ、部長会を実施して生徒の帰属意識を向上させる。
(キ) 健康づくり 生徒の健康に対する自己管理能力を高めること。教育相談を充実させ、特別支援教育を推進すること。	教育相談委員会の定例化を行う。スクールカウンセラーをはじめ、医療・福祉・警察等隣接領域や外部との連携を進める。